

JENESYS2025 日本・マレーシア学術交流（招へいプログラム）の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】

マレーシアの若手大学講師ら 10 名が、12 月 2 日から 12 月 9 日にかけて訪日しました。日本人関係者との交流及び関連施設の視察を通じて、日本への関心向上、日本とマレーシアのネットワークの構築、大学間交流連携の促進を目的として実施しました。

【参加者】マレーシアの大学講師 8 名、大学院生 2 名 合計 10 名

【訪問地】東京都 10 名、茨城県 10 名、栃木県 10 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

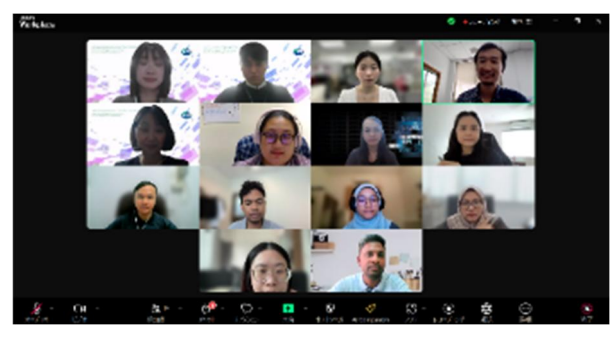
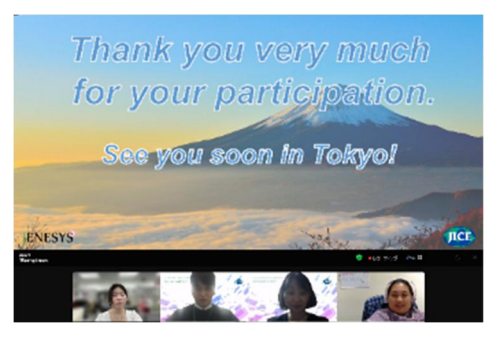
11 月 25 日（火曜日） 【来日前オリエンテーション】
来日までの指定期間 【課題学習（動画配信）】「事前オリエンテーション」「ホームビジット体験」「南三陸町からのメッセージ」「愛知の魅力～産業、最先端技術～」「日本文化理解（京都）」「日本語」

■ 招へいプログラム：

12 月 2 日（火曜日） 成田国際空港より入国
【来日時オリエンテーション】
12 月 3 日（水曜日） 【テーマ関連視察・意見交換】筑波大学
12 月 4 日（木曜日） 【テーマ関連視察・意見交換】筑波大学
【視察】宇宙航空研究開発機構（JAXA）筑波宇宙センター
【視察】AIST-Cube
茨城県から栃木県へ移動
12 月 5 日（金曜日） 【視察】出流原弁天池
【文化体験】フレスコ画製作体験
【表敬訪問】佐野市 金子 裕 市長
【ホストファミリー対面式】
【ホームステイ】佐野市
12 月 6 日（土曜日） 【ホームステイ】文化体験含む
12 月 7 日（日曜日） 【ホームステイ・ホストファミリー歓送会】
【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、SNS 発信状況等確認、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
12 月 8 日（月曜日） 栃木県から東京都へ移動
【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
12 月 9 日（火曜日） 成田国際空港より出国

2. 記録写真

プレプログラム（オンライン事前学習）

	
11月25日【来日前オリエンテーション】	11月25日【来日前オリエンテーション】

招へいプログラム

	
12月3日【テーマ関連視察・意見交換】筑波大学	12月3日【テーマ関連視察・意見交換】筑波大学
	
12月4日【視察】JAXA 筑波宇宙センター	12月4日【視察】AIST-Cube
	
12月5日【視察】出流原弁天池	12月5日【文化体験】フレスコ画製作体験

	
12月6日【表敬訪問】佐野市 金子 裕 市長	12月6日【ホームステイ】
	
12月8日【報告会】	12月8日【報告会】集合写真

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 社会人（大学講師）

本プログラムで最も印象に残ったことは、日本が、学術分野と地域社会の双方にわたって、テクノロジー、規律、人間的価値を強く融合させていたことです。筑波大学訪問では、日本の機関が工学教育において、実践的な学習、研究を重視する文化、そして、細部へのこだわりを大切にしているという点に感銘を受けました。また、企業や施設訪問では、イノベーション、効率性、継続的な改善に対する日本のコミットメントが明確に示されており、教育者としての自己の視点に大きな影響を与えました。更に、学校や文化交流において、日本の学生や専門家と親密に関わることで、チームワーク精神、尊敬、献身についてよく理解することができました。ホームステイを含め、日本社会に対して身近で意義深い理解をすることができました。そして、そのことが、今後の私の教育活動や将来の協力活動を前向きに形作っていくことを確信しています。

◆ 社会人（大学講師）

最も印象に残ったことは、筑波大学訪問でした。学際的分野における先進的な研究やイノベーションは、各参加者に関連するものでした。最新の研究室やスマートキャンパス技術を見学することにより、将来の教育の姿がよくわかりました。そして、文化、伝統、温かいおもてなしが、更にこの経験を意義深いものにしてくれました。テクノロジーと文化の完璧な融合でした。

◆ 社会人（大学講師）

筑波大学訪問は、佐野市でのホームステイと共に、本プログラムの中でとても興味深いものでした。筑波大学訪問は、私の視野を広げてくれました。私たちを案内し、研究を紹介してくださった先生方から非常に多くのことを学ぶことができました。筑波大学の環境は、大学の「開かれた」雰囲気や教授の方々が取り組んでいる様々な素晴らしい研究など、私の母国での大学の環境とは異なっていま

す。本プログラムで得た学びを、帰国後に学術分野での同僚や学生に共有したいと思います。

佐野市でのホームステイも、楽しく忘れられない経験となりました。日本人の家族がどのように日常生活を過ごしているのかを理解できました。ホームステイでは、町を案内していただいたり、地元の博物館を訪問したりしました。ホストファミリーは、お好み焼きやお餅など、本物の日本料理を私たちのために作ってくれました。私は、ホストファミリーが作ってくださったお餅が気に入りました。その味は今後もずっと覚えていると思います。

いつかまた日本を訪れ、その時は友人や家族と一緒に来たいと思います。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー

これまで中・高校生の受け入れは何度もあったものの、今回は久しぶりに大人の方だったので少々不安がありましたが、とてもフレンドリーな方で楽しい時間を過ごすことができました。貴重な時間をありがとうございました。

◆ ホストファミリー

参加者が、ヒジャブのためにアイロンを国から持参して毎朝アイロンがけしていることにはとても驚きました。

彼女たちの性格もあるのですが、自分たちの宗教に対して強い敬意が感じられました。何事もとても丁寧で、でも積極的で、心が温かく、とても感銘を受けました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	
2025 年 12 月 4 日（Instagram） 私たちは JAXA 筑波宇宙センターを訪問しました。ロケットを身近に見上げたのは初めてでした。また、ロケットの打ち上げ成功の裏には大きなチームがいることを知り、目を見張りました。	2025 年 12 月 5 日（Instagram） マレーシアと日本をつなぐオープンな意見交換に参加することができ、たいへん光栄でした。新しい友人と共に、意見、文化、そして、より緊密な協力へ向けた将来のプランを共有しました。この国際的な舞台で、学び、つながり、そして自国を代表できたことに深く感謝します。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、茨城県、栃木県 全2グループ発表

グループ A



General - Prior Knowledge of Japan (Before the Program)

1. Clean and orderly environment - Known from videos showing Japan's cleanliness and public discipline.
2. Early sunset in winter - Gaps dark around 5pm.
3. Polite and disciplined society - Familiar with bowing culture, quiet roads, and respectful behavior.
4. Popular Japanese foods - Knew about ramen, sushi, and miso soup which is also available in Malaysia.
5. Hospitality and respect - Japanese people are kind, humble, and welcoming.

(After the Program)

1. Cleanliness exceeded expectations - Every place was spotless, from streets to campuses.
2. Outstanding manners in daily life - People bow when crossing roads, drivers do not horn, and everyone shows respect.
3. Rich and diverse food culture - Experienced authentic dishes and homemade foods, including homemade mochi.
4. Remarkable hospitality everywhere - Warm welcome from University of Tsukuba, Mayor of Saito City, and homestay families.
5. Japan's values and culture leave deep impact - Discipline, harmony, and kindness are seen at all levels of society.



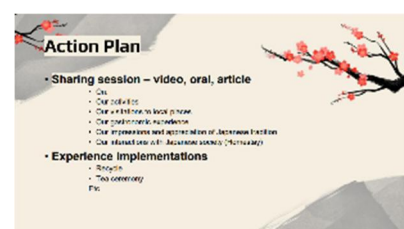
【成果の発表】

- ・ 清潔さは予想以上で、日常生活でのマナーは素晴らしかったです。食文化は豊かで多様性があり、温かいおもてなしは特筆すべきものでした。日本の価値と文化は深く心に残るものでした。
- ・ 筑波大学訪問、JAXA の視察、AIST-Cube の視察から科学技術について多くのことを学びました。

【アクション・プラン】

- ・ 大学教授陣、大学院生、学部生に向けて、グループや個人のオンラインで 2026 年 2 月に文化共有セッションを開催します。
- ・ 2026 年 1 月に、JENESYS プログラムや日本の観光、歴史、文化、経済、広報の促進に向けて SNS に投稿します。

グループ B



【成果の発表】

- ・ マレーシアと日本では、文化や歴史において、似ている点も異なる点もありました。似ている点としては、伝統に対する強い尊敬、豊かな伝統芸術、多様な食文化があります。伝統的な建物、民族衣装、伝統的な踊りにおいては、違いがありました。
- ・ 科学技術において、マレーシアよりも日本のほうが進んでいることがよくわかりました。また、日本は継続した研究に優れており、常に回答を追い求めています。

【アクション・プラン】

- ・ 本プログラムの活動、地域への訪問、日本の食文化の経験、日本の伝統についての印象、ホームステイを通しての日本社会との交流について、動画、口頭説明、文書を用いて、情報を共有するセッションを開催します。
- ・ 日本での経験を活かし、リサイクル活動や茶道などの取り組みを実施します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）